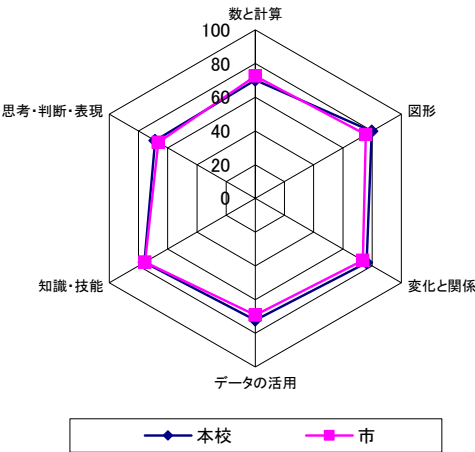


宇都宮市立桜小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	70.3	72.6	73.1
	図形	79.7	75.7	74.7
	変化と関係	76.3	73.6	66.1
	データの活用	72.2	69.2	70.7
観点別	知識・技能	76.0	75.5	74.4
	思考・判断・表現	68.6	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数の基本的な乗法の計算や、小数の文章問題を解くための立式を問う問題では、正答率が市の平均を上回っている。 ●分数の乗法の文章問題に合った記号を選ぶ設問で正答率が5割程度と市の平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・練習問題などに繰り返し取り組ませて学力をつけさせたい。 ・文章問題を表す式や図の意味が理解しやすいような教材や教具の活用を増やす。
図形	○「面積と体積」「対称な図形」についての正答率は市の平均よりも大きく上回っている問題が多い。 ○合同な三角形を作図する問題では、93.3%と高い正答率になっている。 ●三角形の外角の角度、図に示された六角形の内角の和の求め方、三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点の設問で、正答率が市の平均よりやや低く問題があった。	・正多角形については5学年の学習内容であるため、復習問題に取り組ませ、理解の定着を図る。
変化と関係	○「面積から人数の割合を求める」問題や「分速を秒速や時速に直す」問題では、正答率がいずれも市の平均を上回っている。 ○「半分が何パーセントであるか」の問題では、91.1%と高い正答率になっている。	・単位量あたりの大きさ、速さ、割合を問う問題について、様々なパターンの問題に取り組ませ、さらに理解の定着を図る。
データの活用	○表の値の平均値を求める問題では、正答率が9割を超え、市の平均を上回っている。 ○円グラフから割合を読み取り、全体の量をもとにその割合に合う量を求める問題では、市の平均より9.4ポイント上回っている。 ●最頻値を求める問題は、市の平均をやや下回った。	・平均値、中央値、最頻値が表している数値の意味をしっかりと確認させるなどして、データを読み取る力を向上させる。